

夕光

ゆうかげ

伊豆高原十字の園 機関誌

117



<特集>

「ユートピア」の種をまき 育てるのです。 伊豆高原十字の園 施設長 森 茂廣

この最も小さな者にしたのは ~神を愛し、人を愛する~ 伊東教会牧師 内田 知

クリスマス、もちつき・・・様々なイベントがありました

<表紙の写真> 2012.12.3
居酒屋オープン!
おでん、焼き鳥・・・お酒が進みますね

「ユートピア」の種をまき

育てるのです。

伊豆高原十字の園施設長 森 茂廣

伊豆高原周辺には、『イトーピア』『理想郷』『ひかりのむら』等という名称のエリアが点在しています。おそらく、風光明媚で豊かな自然に触発された人々が、この地を『ユートピア』にしようという思いで、名づけたのだと思います。

伊豆高原十字の園も、入居者お一人おひとりの幸せ、それぞれの小さなユニットの平和、デイサービス、訪問介護利用者の幸せ、働く人々の幸せを願う「こころ」を中心に運営され、また、この「こころ」が地域に広がり、地域に暮らす人々の幸せを願う拠点として伊豆高原十字の園は存在していると言えます。

先日、鹿児島県の社会福祉法人『野の花会』から広報誌四回分が送られてきました。一度もお会いしたことのない法人の機関誌でしたが、各ページにちりばめられたタイトルに吸い込まれるようにして、読ませていただきました。そこには、基本理念として『福祉文化の創造』が掲げられ、中期目標・生きる喜びを支えるケアの実現。短期目標・創設時の思

いと力を原点として再び研鑽を積みとありました。因みに、我が、十字の園の運営理念は『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります』です。同志を得た思いでした。そして、何より、嬉しいのは、「野の花会」の施設及び法人としての目標が、その歴史の中で、具体的に実践され、「福祉文化」の成長、発展、定着が広報誌の中で、手に取るように紹介されていることです。お年寄りの輝いて生きる姿、それを支える職員の熱意、あつたかさ、それを包むいやしとやすらぎの環境、これこそ、私たちが求める展開でもあります。読みながら、とても幸せな気持ちになりました。

た。

さて、一体、この広報誌は、なぜ、私宛に送られてきたのでしょうか？

中身を読むにつれ、全国に『ユニットケア』の伝道師として、しあわせの種をまきながら旅をする全国ユニットケア研究会代表の武田和典氏のことか、思い出されました。きっと武田さんが、同志として繋いで下さったのだと確信しました。伊豆高原十字の園も、地域の皆さんとともに、『お一人おひとりの幸せ』と『地域全体の幸せ』を目指す総合福祉施設として、社会福祉

の理想である『ノーマライゼーション社会』の実現へ向け、日々歩んでいます。『ユートピア』の種をまき、育てるのです。・・あなたとともに。

この最も小さな者にしたのは

く神を愛し、人を愛するく

伊東教会牧師 内田 知

昨年四月、わたしの祖母が九六歳で

天に召されました。祖母はもう八〇代には立派な認知症で、しばしば徘徊して警察のお世話になったり、自分の息子のことを「変な男の人がいる」と言ってみたり（笑）。：年々衰えは進み、歩けなくなり立てなくなり、着替えも食事もお手洗いも一人では出来なくなり、記憶はもろろん言葉さえ奪われていきました。そして最後は口から物を一切摂取できなくなり、入院をしました。しかし点滴も入らず、意識のないまま一切の水かさえも摂らず、二週間危篤の状態が続きました。その最後の臨終の床で、わたしの父が耳元でこう語りかけたといひます。「母さんの息子がよかったです。今まで本当にありがとう。でも母さんのためにぼくにはもう何も出来ない。でも、これから先はイエスさまが天国の神さまのところ

連れていってくれるからね。」すると意識もなかった、そしてずっと認知症でろくに対話も出来なかった祖母の目から、涙がツーツと流れたということでした。もう何も分かっていないかと思っていた祖母。しかしどんなに認知症になっても、危篤になっても、しっかりと聞こえており、また分かっていたのです。

これはきっとみんなそうなので、その人の心にはすべてが届いており、たとえ認知症になろうがどうなるうが、その人の魂にはすべてが分かっているのです。：もつと言うと、たとえその人が何も分からなかったとしても、その人の背後には神さまがいて、神さまがすべてをご存じなので、神さまがすべてを「わたしの兄弟であるしにしてくれたことなのである。」（マタイ二五章四〇節）わたしたちの働きや語り掛けを最期まで「その人の魂は分かっている」、また「神さまがすべてをご存じである」、これは介護の倫理として、否、人として隣人に関わる全ての場面において最も大切なことです。「神を愛し、隣人を愛する」、この視点を失ってはなりません。

クリスマス

2012年も終わりが近づき、伊豆高原十字の園にも待ちに待ったクリスマスがやってきました。

施設内はツリーやリースなどの飾りつけによって、クリスマスの雰囲気に含まれていて、見ているだけでも楽しくなっています。

イエスキリストの誕生を祝う日ですが、こうして皆さんと幸せな時間を過ごす事の出来るとても良い日だと思います。クリスマスが過ぎるとお正月ですが、2012年もいろいろな事がありました。来年もどうか良い1年となりますように…



クリスマス礼拝の様子

クリスマスは1年に1度の特別な日です。

この日の礼拝で今年1年を振り返り、来年に向け気持ちを改める事が出来ました。



聖餐式

こちらは聖餐式の様子です。聖餐式とは、パンとワインをキリストの血肉とみだてて食する事で、イエス・キリストの存在を、より近くに感じるための行事のことです。



ユニットのクリスマス

クリスマスと言えばクリスマスパーティーですね。豪華なごちそうと、クリスマスケーキ、更にはプレゼントまで。サンタさんと「メリークリスマス」やはりこれが一番の楽しみです。





お正月の準備



今年の汚れは今年のうちに！ということ、大掃除を行いました。お部屋、キッチン、お風呂場、トイレ、換気扇、窓ふきなど掃除する場所、たくさんありますね。



年末恒例の『もちつき』を12月27日に行いました。三階エレベーターホールに集まり「よいしょ！よいしょ！」の賑やかな声と杵の音が響き渡りました♪ つきたての「きな粉餅」、「あんこ餅」を皆さん笑顔で召し上がりました。



こちらは、元旦礼拝の様子です。
本年もよろしくお願ひ致します。



芋煮会

2ユニット合同で旬の食材を使い、芋煮汁、餃子、おにぎりを、いつもと違う雰囲気の中で召し上がって頂きました。餃子とおにぎりは、複数の入居者と一緒に作りました。手慣れた手つきで餃子を包んだり、おにぎりを握ったりと…なかには待ちきれずひとつまみされる方もいましたが、それもお約束ですね♪

芋煮は鍋3つで調理しました。何十人分も作ると美味しく感じるのは何故でしょうね？



寒くなってきたこの季節での芋煮は体もポカポカになります♪

皆さんお腹いっぱいになるまで召し上がられ満腹そうな様子でした。職員も一緒に召し上がり、美味しい思いをさせて頂きました。味よし、見た目よし、香りよし：皆さんの笑顔が揃いました。
ユニットの枠を超えての試みでしたが、楽しんで頂けたのではないのでしょうか。またこのような機会が入居者の方たちと一緒に料理などを作り、家庭的な雰囲気を出していきたいと思ひます。

富岡 良太

家庭の暮らしを目指して

ユニットケア奮闘記

伊豆高原十字の園を

自然公園に

前号の機関紙の中で、森施設長が「伊豆高原のかけがえのない素晴らしい自然環境は、十字の園に集う人々と自然が共生する自然公園として大切に守り育て、そして、その豊かさを楽しめるように整備したいと思います。」と書かれていました。

確かに、自然に恵まれた環境ではありませんが、住宅地からは離れており、地域との関わりが課題でした。

そこで、人と自然が美しく調和して共生する地域として、恵まれた環境にある伊豆高原十字の園を、利用者、入居者、ご家族、地域住民、そしてスタッフも共に楽しめる自然公園にしよう！と構想を練っています。

たとえば、玄関から出て散歩したくなる遊歩道、花壇、木陰、バラや藤のアーチ、テーブルやベンチなどを設置し、植物を育て、見る楽しみ

を大切にします。施設内の2か所の光庭についても、スタッフ、ご家族、ボランティアで構成するガーデニングクラブを発足させ、その活動を活性化し、伊豆高原十字の園の新たな名所造りに挑戦してみたいかがでしょうか？

静岡県グリーンバンクに依頼した花の種類や苗、木などが、そろそろ届く頃です。夢を見るのは自由です。まず、みんなで、夢を分かち合ってみませんか？



十字の園大会報告

10月26日に御殿場市で開催された十字の園大会に参加しました。

各施設の取り組みを聞くことができ、とても刺激になりました。どの施設の取り組みも入居者さん、利用者さんを中心に考えた支援、自立支援のありかたを考えさせられる取り組みでした。

平和の杜は看護師を含めた取り組み、特定疾患を抱えながら病気と向き合い、残された余生を自分らしく生きて行こうとする入居者に対し、施設全体でどのような支援が必要かを考える取組でした。アドナイ館は理学療法士含め、機能訓練、口腔ケア、レクリエーションをそれぞれ専門職が中心となつて、自立支援につなげるという取組でした。看護師、理学療法士と、違う視点からの発表も聞くことができました。

特に印象に残った取り組みは、第2アドナイ館の「テレビ介護をなくそう」という取組でした。入居者さん自身による自己決定、それに基づく自立支援を目指したいという職員側の理想があっても、現実はな

十字の園大会

創立の精神(こころ)から
新たな福祉に挑戦

今年度は10/25.26に御殿場市で開催され、『生きる希望を創る』自立支援ケア”をテーマに各施設の発表等が行われました。

かなか難しく、入居者さん自身も受け身で過ごされている。それはテレビの前で1日のほとんどを過ごされている姿に象徴され、これを機にそうした状況から脱却できる何かをつかもうと、始められている取組でした。

入居者の意向、自己決定を大切に、どんなに支援が必要になつても、その人らしい人生をご自分の意思で送ることが出来るように支えるのが職員の役目です。残存機能の維持や、廃用症候群にも注意しなければいけないのは勿論ですが、お一人おひとりの自己決定を尊重していくことで生きる力へと変わり、その人らしく生き生きと過ごして頂けるのではないのでしょうか。

池田慎一郎

行ってきました

熱川温泉

静岡県では、車椅子などを使用されている身体の不自由な方が、安心して温泉施設を利用できるように「安全・安心な温泉絆推進事業」を進めています。県ホテル旅館生活衛生同業組合を事務局とし、静岡福祉大学 田崎裕美教授を座長とするワーキンググループを開催、その中で、実際に車椅子を使用されている方が支援者と一緒に温泉宿泊施設に泊まり、使い勝手を検証する取り組みが行われています。当施設の森茂廣施設長も、このグループのメンバーであり、1月24・25日に開催された第2回のホスピタリティデモンストラーションに伊豆高原十字の園から2名の入居者が職員と一緒に参加しました。



宿泊先は、東伊豆町の熱川プリンスホテルです。天気にも恵まれ、客室からの眺めは素晴らしいものでした。ホテルスタッフの対応や車椅子昇降機、簡易スロープ、エレベーター、貸切露天風呂、館内や客室内の移動など、様々な点を実際に体験・使用し、2日目には意見交換を行いました。参加した久野幸子さんは、「この年になって温泉に泊まれるとは思わなかった。」村井満雄さんは「朝風呂は最高だった。料理も良かった。」と喜ばれていました。



秋の味覚 椎茸狩り

「ただいまあ。」「お兄ちゃん、お土産だよ。」と満面の笑みを浮かべながら、入居者の皆様から手渡しされたのは、袋に入れられた椎茸でした。施設の敷地内には、椎茸栽培のために玉切りした原木に、椎茸菌の付着した木片（種駒）を打ち込んだ『ほだ木』があります。

施設営繕の石川職員の手で作られ、伊豆高原の緑豊かな大自然の中で育まれて、立派に成長した椎茸が、収穫の時期を迎えました。



自然に触れながら、自分達の手で収穫した椎茸を、昼食の味噌汁の具として、召し上がりました。

「また、椎茸狩りがしたい。」
「楽しかったよ。」「今度はいつやるの?」と声をかけられ、次回は収穫した椎茸を七輪で網焼きにした物を、召し上がって頂こうと企画をしましたが…。残念ながら、椎茸も大勢で収穫できる数には至らず時期は終了となりました。

また一つ、伊豆高原十字の園の恒例の行事が増えました。来年は、何回も収穫できる事を期待して、皆様と一緒に楽しみたいですね♪

私の作業場を 紹介します！



私は事務室所属で、ショートステイ送迎・営繕をしています石川公弘です。普段は施設内にいることは少なく、施設廻りで芝の手入れや枝の剪定をしたり、備品の修理などを地域交流ホールの裏にある作業場で行っております。

今回は、休日に作成した小鳥の餌台のお話をします。

私の作業場から見ていると、メジロ・ヤマガラ・シジュウカラなどがやって来て木にとまります。餌をついばんでいるのを見ると心が和みますよね！

そこで作ったのが「写真①」のオープンタイプの餌台です。しかし、これではリスさん達が登って、一瞬で餌を食べてしまい、本来の目的である小鳥さん達には餌がなくて涙！



写真①

それで改良した「写真②」の縦格子の餌台です。



写真②

鳥の巣箱「写真③」の穴の径28ミリを参考に、27〜29ミリの間隔で格子を作りました。鳥さん達に楽に入ってもらいたいという親心から、少しでも狭いところがあります。自分では完璧と思いましたが残念でした。リス達は、この狭い格子の中に入って餌を食べてしまい涙！

またも改良、休日の楽しみです。

今回は縦格子を26ミリで均等にしましたが、それでもリス達は格子の角をかじりだしました。そこで、格子の角に細い鉄製の棒を付けて角をかじれないようにしたのが、写真④現在の餌台です。



写真③

たまに登っているのを見ますが、餌は食べられません。まだ諦めてないようです。

写真②④で見えます水の給水器。これは、水がいつでも一定の量を保つスグレモノです。この原理がわかる人はいると思いますが、私は二度三度、試行錯誤してできました。写真⑤は空中餌台です。

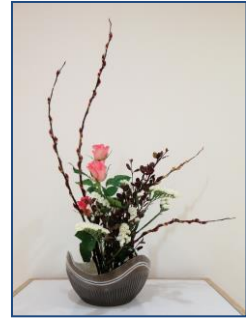


写真④



写真⑤

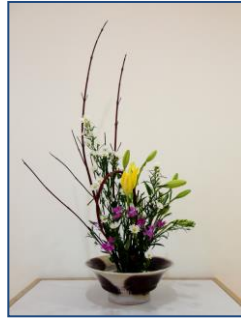
生け花サークル



上島重代さん



西村芳江さん



大川みち江さん



中島綾乃さん

あゆみのあと

10月

4▽生け花B

5▽役割基準作成プロジェクト

9▽理髪

11▽森田屋

15▽生け花A

17▽移動美容室

18▽おやつサークル

25▽十字の園大会(御殿場)

26▽十字の園大会(御殿場)

11月

6▽理髪

7▽防災訓練

8▽森田屋・全体勉強会

12▽生け花B

13▽車椅子清掃

15▽おやつサークル

21▽移動美容室

22▽やまもも(パン販売)

25▽モーニンググワイヤー

12月

3▽イブニンググワイヤー

4▽理髪

6▽生け花B

7・14▽中堅職員研修

10▽イブニンググワイヤー

13▽森田屋

17▽生け花A

18▽眼鏡相談(メガネパブリキ)

19▽移動美容室・防災訓練

22▽聖餐式・クリスマス礼拝

26▽やまもも(パン販売)

27▽もちつき

献金・献品者ご芳名

10月▽西川満夫、中島省吾、豊橋鷹丘キリスト教会

11月▽坂田ハツ子、豊橋鷹丘キリスト教会

12月▽宇佐美教会、伊豆聖マリア教会婦人会、石田朋子、八千代台教会教会学校、中島省吾、伊豆八幡野教会、豊橋鷹丘キリスト教会、村岡、寺川静枝、匿名1件

皆様のご支援をお願い致します

郵便振替口座 00810-6-168180
ゆうちょ銀行 089店 当座 0168180
口座名義 伊豆高原十字の園

ご連絡いただければ、振替用紙をお送りいたします。

伊豆高原十字の園 電話：0557-54-1613

◆献金感謝◆

H24年 10月～12月

計 15件 5,361,216円

ご協力くださいました多くの方々のご厚意に感謝しつつご報告いたします。ありがとうございます。

感謝ボランティア

伊東教会婦人会、宇佐美教会婦人会、のぞみの会、麦の会、家族会、伊東市第六地区民生委員児童委員協議会、大室高原ボランティアグループ、内田知(伊東教会)、千代崎聖子(伊東キリスト教会)、久保島泰・久保島理恵(伊豆八幡野教会)、山口光仕(川奈聖書教会)、島澤かおり(宇佐美教会)、浅野悦昭、岡善実、郵便局局長婦人会、東部会、平和の杜、伊豆高原ペンション協同組合

(順不同・敬称略)

苦情対応の状況

▽施設 0件
▽在宅 1件

・訪問介護員の資質について改善指導してほしいとの事。個人と全体に指導しました

〈苦情受付担当者〉

在宅・重永仁美(次長)

施設・小川秀幸

(主任生活相談員)

発行人/施設長 森 茂廣

お知らせ

★清拭布寄付のお願い★

不要になった浴衣やタオル、雑巾等がありましたら、寄付をお願いします。生活相談室の小川までご連絡下さい。

あとかぎ

あつという間に2012年も過ぎてしまい、また新しい年がやってきました！みなさんは素敵なお正月を過ごされたでしょうか？昨年はいろいろと新しい事に挑戦することができ、とても充実した一年でした。今年も昨年学んだことを活かしながら、国家試験に向けて勉強を頑張りたいな・・・なんて思っています。ですが、勉強が大嫌いな私は口だけになってしまいそうなので、ふらふら遊んでいたら喝入れてやって下さいね(笑)皆さんの今年の抱負はなんですか？皆さんにとって素敵な一年になりますように！(す)



十字の園 検索 http://www.jyuji.or.jp

